



書見台の上部に、固定することで教科書やノートも広げるスペースを確保した。(左利きなので左側)

ある程度の深さ(3~4cm)があるため、投げ入れるようにしても転がりではない。



手を伸ばすだけで、えんぴつ・消しゴム・定規など、簡単に手にすることができる。

◇指導のねらい

弱視児が書見台を使用して学習する場合、鉛筆や消しゴムなどが、転がったり落ちたりして、その都度探すことで意識がとぎれてしまう。

整理箱を書見台に固定することで、目で確認しなくても、手を伸ばすだけで、いつも決まった場所に筆記用具が見つかるようにした。

◇基本の使い方

鉛筆・赤青鉛筆・定規など長いものと、消しゴムなどを分けて入れるよう、最初に指導しておく。朝、登校したときに筆入れからその日使う文具を入れておくようにさせる。

◇指導の評価

使用前は、鉛筆などをよく机から落とし、探すのに時間がかかったり、教師の助けを借りたりしていたが、それがなくなり、授業に集中することができるようになった。